

第12問 質権に関する次のアからオまでの記述のうち、判例の趣旨に照らし正しいものの組合せは、後記1から5までのうち、どれか。

なお、担保不動産収益執行の開始はされていないものとする。

ア 質入債権が不動産の給付を目的とする債権である場合、質権者は、質権の実行として、第三債務者に対し、自己にその不動産の所有権の登記を移転するよう請求することができる。

イ 不動産質権の存続期間を15年と定めた場合、設定の時から10年を経過したときであっても、被担保債権が存続している限り、設定契約で定めた存続期間内であれば質権は消滅しない。

ウ 動産質権者は、被担保債権の弁済期が経過したにもかかわらず、その債権の弁済を受けない場合において、正当な理由があるときは、鑑定人の評価に従い質物をもって直ちに弁済に充てることを裁判所に請求することができる。

エ 不動産質権者は、当事者間で別段の定めをしない限り、被担保債権の利息を請求することができない。

オ 動産質権者は、被担保債権の弁済を受けるまでは、質物を留置することができ、この権利は、自己に対して優先権を有する債権者にも対抗することができる。

1 アイ            2 アオ            3 イウ            4 ウエ            5 エオ